

学校教育目標		『つながり』を大切に 自ら未来を切り開いていく 児童の育成				総合評価	
運営方針		○『TSUNAGARU～人と、世界と、未来と、心と。』を合い言葉に、強い使命感をもった教職員集団で、子どもたちに「予測不可能な時代を生き抜く力」を育てる。 ○保護者・地域と学校が双方向で協力し合える学校づくりを通して地域の人々から愛され信頼される学校を目指す。					
令和5年度の成果と課題		本年度の重点目標		具体的目標			
○論理国語の授業マニュアル作成 ○読書環境の整備 ○自主学習の推進 ○自己肯定感の向上 ○地域への愛着 ○集団づくりの取り組みによる自尊感情の高まり ●「書く力」の向上 ●家庭での読書習慣の定着 ●学習することが楽しいと感じる児童の育成 ●HSC傾向にあたる児童の共感的理解 ●家庭での生活習慣の改善 ●小中一貫教育推進のための学園組織の再構築		◎言葉にこだわった論理力指導による確かな読解力の育成		○系統的な論理力指導による読解力(書く力)の育成			
		◎自己を見つめ直し他者を思いやる心の育成		○体系的な読書活動の推進による語彙力(知識語彙・使用語彙)の獲得			
		◎運動習慣の定着による基礎体力の向上		○学級活動の充実と異学年交流活動の推進			
		◎小中一貫教育、教職員の働き方改革の推進		○他者理解と人権教育の充実			
				○興味や関心を中心にした運動習慣の定着化			
				○課題の分析や生活習慣改善による基礎体力の向上			
				○学園構想に基づいた小中一貫教育の推進			
				○業務の効率化による働き方改革の推進			
評価項目	具体的目標(評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
読解力にこだわった論理力指導による確かな	縦のつながりを意識した論理力指導による読解力(書く力)の育成	領域「書くこと」の系統性を意識した指導を通し、各発達段階での知識・技能の定着を図る。単元末には「書く」言語活動を必須設定にするなど、書く機会を多く設ける。書くことが昨年よりも得意になったと答える児童80%以上を目指す。 文章の内容を論理的に理解する系統的指導を通し、児童の「書く」力の育成や読解力向上につなげる。県の国語科の学力調査において、全学年が県平均を上回ることを目指す。					
	様々な読書活動の推進による語彙力(知識語彙・使用語彙)の獲得	様々な読書活動や環境整備を通し、読書意欲の向上や知識語彙の獲得を図る。昨年度に比べて、新しく言葉を知ることができたと答える児童90%以上を目指す。 「書く」「話す」など、新しく知った言葉を実際に使う機会を確保し、習慣化することで、使用語彙の獲得を図る。新しく使える言葉が増えたと答える児童80%以上を目指す。					
自己を見つめ直し他者を思いやる心の	学級活動の充実と異学年交流活動の推進	学校での生活がより豊かな集団生活となるように、集団活動の充実を図る。児童が互いによさを認め合う活動を取り入れ、自分にはよいところがあると思う児童90%以上を目指す。 学級活動や東っ子集会などでの感想交流や振り返りカードで、自分や友だちのよさを見つけさせ、活動意欲を高める。東っ子集会で、上級生がリーダーシップを発揮できるように計画、準備を行う東っ子集会を年間3回以上行う。					
	他者理解と人権教育の充実	先生や友だち、地域の方と挨拶を通してつながることで他者理解や人を思いやる気持ちを育む。挨拶向上委員会のメンバーを募り、活動することを通して、挨拶をしている児童の割合90%以上を目指す。 毎月の人権のめあてを学級に掲示するとともに、全校朝会や学級で取り組みを進め、学期に1回人権だよりを発行し、学校での取り組みを家庭に知っていただく。					
運動習慣の定着による基礎体力の向上	興味や関心を中心にした運動習慣の定着化	運動能力や興味・関心に沿ったハッスルキッズを学期に1回程度行い、外遊びチャレンジも実施していく。また、校内表彰等を通して、運動が好きな児童を育成する。身体を動かすことが好きな児童90%以上を目指す。 休み時間に各学年が進んで身体を動かしたり、遊んだりできるよう、週に1回体育館を開放する。また、児童が活用できる道具を各学年に割り当てる。					
	課題の分析や生活習慣改善による基礎体力の向上	体力測定の結果を基に児童の体力・運動能力の課題を明確化し、系統だった体力・運動能力の向上に取り組む。年間を通して、授業で柔軟体操を取り入れる。各学年5種目以上で県平均を上回ることを目指す。 生活調べを活用して、保護者の積極的な協力を得ながら自身の生活習慣を振り返る機会を学期に1回もつ。「早寝・早起き・朝ご飯」の項目において、達成率85%を目指す。					
小中一貫教育、教職員の働き方改革の推進	学園構想に基づいた小中一貫教育の推進	・主幹教諭を中心に小中の連携を密にし、東部学園の全職員が共通理解の上、学園運営に参画するため、東部学園職員全体研修を3回行う。研究授業について適宜交流する。					
	業務の効率化による働き方改革の推進	・ICT機器を活用した業務改善やNO残業デーの設定をし、1ヶ月の平均時間外業務時間が45時間以内の職員を75%以上にする。					
今年度の成果と次年度への課題		[成果]			[課題]		